



農産物の生産地と消費地の社会的距離

明石 光一郎

フードマイレージという概念が注目されている。それは、農産物の生産地から消費地までの距離に輸送される重量を掛けた値であり、単位はトン・キロメートルで表される。その値が大きいくほど多くの化石燃料を使用することになり、環境への二酸化炭素排出量が多くなるという。

フードマイレージは生産地から消費地までの物理的距離により規定されるが、ここでは生産地から消費地までの「社会的距離」を考察したい。社会的距離とは、消費者にとって農産物生産者からの心理的な距離感のことであり、知人のほうが他人より近いと感じ、国内のほうが外国よりも近いと感じると予想される。さらに外国でもより法制度の整備された法治国家のほうが、人権を抑圧する独裁国家より近いと感じるであろう。

表1 食品に関する意識調査

仮にあなたがコメを購入する場合、値段が同じならば、以下にあげるコメのうち、どの順番で購入したいですか。購入したい順に記号を書いてください。

- a 中国産米
- b 北朝鮮産米
- c 同じ町内のよく知っている人が作っている米
- d オーストラリア産米
- e 親戚が作っている米
- f 新潟産の米

そのために私は埼玉大学の学生 32 人に対して表1のアンケート調査を行った。

回答はほぼ予想したとおりのものが得られた。すなわち、1位：親戚が作っている米、2位：新潟産の米、3位：同じ町内のよく知っ

ている人が作っている米、4位：オーストラリア産米、5位：中国産米、6位：北朝鮮産米、であった。

「親戚が作っている米」が1位になるのは予想どおりであり、だれでも身内の作っている安全な米を食べたいのであろう。2位に「新潟産の米」がきたのは、食味を優先し、おいしい米を食べたいという意識のあらわれであろう。「同じ町内のよく知っている人が作っている米」が3位になったのはやや予想外であったが、同じ町内の埼玉の米よりは、新潟の米のほうがおいしく、安全性にも大差はないと回答者たちは感じたのではなかろうか。いずれにしろ国産米が上位3位に入るのは全くの予想どおりであり、消費者の国産米に対する強い嗜好を表している。この結果は食味もあるが、社会的に近く安全な米を購入したいという意識があると思われる。4位はオーストラリア産米であり、三つの外国産米の中で最も選好された理由は、オーストラリアに清潔なイメージがあることにもよろうが、同国が日本と同じ法制度の整備された民主主義国家であり、社会的に近いと感じたのではないかと思う。5位が中国産米であったのも予想どおりであり、中国産の健康食品や冷凍野菜などの安全性の問題が報道されていたため、「中国産イコールあまり安全ではない」という意識が回答者にあったのかどうかは定かではないが、中国が日本とは異なる政治体型をとる社会主義国家であるために、疎遠に感じたとも考えることができる。北朝鮮産米が第6位であったのは当然であろう。同国は日本と国交がないために、回答者たちは最も社会的に遠く感じたのではあるまいか。

以上、消費者にとっては生産者との社会的距離が購買意欲に影響を与えているという仮説を提示した。